

都 鳥



第 10 号

2011年 11 月 版

題字「都鳥」は 伊藤幸子の筆

科学の終焉

--- 都鳥からのメッセージ ---

科学の終焉、1971年に米国で出版されてベストセラーになった本です。原書は **The End of Science** という、

内容は哲学的で難解な文章ですが、要約すると「科学は著しく進歩した。量子論とか相対性理論のような大きな発見はもうありえない」と言っています。これに対して「科学は永遠である。生命の起源などまだ何一つ解決されてない。医学などは未知の世界だ」などと激しい反論が出ています。

なにをもって科学とするかは議論のあるところですが、最近の万能細胞という医療技術の発見は不治の病に苦しむ人たちにとって朗報です。私たちのまわりを見渡すと、二十世紀に科学が著しく進歩して生活が便利になりました。しかし、一方で失ったものも多いように思います。

アルフレッド・ノーベルが見つけたダイナマイトはテロの道具になっている。広島、長崎で30万人の命を奪った原爆は、いまや大国の無言の兵器になっている。この魅力にとりつかれ、自らも核を持ちたいという国があとを絶たない。この矛盾に耐えられず、思わず「もうこれ以上便利にならなくてもよい」と叫んでみると「科学の終焉」も納得できる論理かも知れない。

過去100年間で人間の寿命が著しく伸び、今世紀には地球上の人口が100億人を超えると言う。食料が不足して森林伐採による環境破壊で地球の温暖化が進むという。私が住んでいる神奈川県に丹沢山脈がある。今、野生の鹿が増えて木の幹皮を食い散らし、木が枯れ、山が崩れて深刻な環境問題になっています。世界を見渡すと、鹿だけでなく人間も増えて地球を食い散らしています。科学の進歩が、地球のバランスを壊すものであるならば、私たちは「これ以上、科学を必要としない」と叫びたい。

科学立国日本であるのだが、今回の東日本大震災の地震と津波の被害、さらには原発事故を考えると、私たちは日ごろ気付かずに享受している豊かな生活の背景を考えなおす時期にあるのかもしれない。

(西脇基夫 記)

安藤 雍子（津田）

名古屋市長太新町 5-9-7

軽井沢の休日

観光客で賑わう軽井沢銀座から少し離れると別世界が現れ、矢ヶ崎池の水面に大賀ホールの特異なシルエットが浮かんでいました。信州特産のカラマツをふんだんに使ったとされるホールは内装の組み木が独特の音響を醸し出していました。大都会のホールとは異なるこじんまりとした5角形の会場では、「音楽家の食卓」と題してロッシーニ、ショパン、モーツァルト、ブラームス、ドビュッシーの素敵な演奏の間に、美食のエキスパート山本益博氏のトークが会場に和やかな雰囲気をもたせていました。

8月も終わりに近づいたある日、旧友のYさんから誘われて初めて軽井沢国際音楽祭に足を運んだのでした。Yさんは以前名古屋で共に読書会を楽しみ、またお花を教えて頂いた中です。娘同士も親友という親しい間柄です。今は名古屋と横浜と離れていますが、昨年、横浜でドガの展覧会を一緒に観た後話が尽きず、いつかまた会いましょうねと約束したのが今回の軽井沢行きとなったのでした。その夜は木立に囲まれた友人の会社の寮に泊めて頂き、久しぶりに再会を楽しみました。

大賀ホールでのコンサート前日は、北軽井沢のユニオンチャーチで室内楽を楽しみました。ユニオンチャーチは100年以上前に建てられた木造の質素な教会です。信仰の活動と並んで、音楽等文化活動にも広く開かれたユニークな教会です。小さな教会に響くバイオリンの調べにうっとりし、短い夏休みを楽しんだのでした。

石河 辰江（岡部）

鈴鹿市長太新町 1-2-5

思い出の夏

大地震、豪雨、竜巻、猛暑、、、この夏、日本の各地で強烈な言葉が繰り返されました。美しい季節の流れは失せてしまったのでしょうか？ 大自然の恩恵を忘れたわけではなかったのに、、、お茶の稽古の朝茶花一輪にも不自然を覚えるほどでした。

その中であって、我が家では、今年大学生になった孫が、自動車の運転免許を取得しました。アメリカンフットボールの練習で真っ黒に日焼けをし、自ら運転して元気な顔を見せに来てくれます。先日美濃加茂市までの墓参りの際にも彼の運転で行き、東海北陸道では、同乗する私達は少なからず両手に力も入りましたが、御先祖様には諸々の嬉しい報告が来ました。今日も、主人の大好き物の西瓜を運んで来てくれました。「じーじが大好きな西瓜を食べて、この夏を元気で過ごしてくれたら何よりだよ」と、嬉しい言葉をかけてくれます。幼い頃から、車が大好きな彼のお陰で数々の車種を覚えた私です。

中学三年生の孫娘も会う度に成長し、時間が出来るとお茶の稽古に通って来ます。夏休みの宿題をパソコンで仕上げる姿は、私のついて行けない世界です。二人の孫から元気を貰いながら、成長を楽しみに、毎日を過ごせる事に喜びと、感謝を覚える老夫婦です。

原稿を書いている今、つくつくぼうしが鳴いています。それぞれの出番を忘れずに秋を知らせてくれますね。

この号にて「都鳥」が最終と伺いました。第一号より、編集者の皆様のお力添

えに心から御礼申し上げますと共に、同級生の方々の御健勝を祈念申し上げます。
合掌

石橋 幹子（重森）

三重郡川越市豊田 6 3 6

都鳥さようなら

都鳥を毎週整理してお作り下さった方々に、厚くお礼申し上げます。いろいろとご苦勞をおかけしたと思います。二七会の皆様のさまざまなことがよくわかり、毎号たのしく拝読いたしました。何事も終りは訪れるものです。これからは、お作り下さった方々に感謝しながら読み返していこうと思います。ほんとうに有難うございました。都鳥にあちらこちらと飛び回って頂いて、お疲れ様そしてさようなら。最後に金子みすずの詩を記してお別れとします。

私が両手をひろげても
お空をちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速く走れない

私が体をゆすっても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
沢山唄は知らないよ

鈴と小鳥とそれから私
みんなちがってみんないい

「私と小鳥と鈴と」より

伊藤 幸子

東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

颯爽たる職人たち（2）

伊太郎氏は、西陣の中では誰よりも早

くから超高価な英国製の背広を着た。グルメとしても最大級だった。縛られることが嫌いで、破格の条件で勧められた専属の話を断り、人間国宝への要請も辞退して、自由奔放な生き方に徹した。

3歳年下の安次郎氏は、一見したところ常に機と共にある質実な生き方を続けていたように見える。ところが小学生の頃の彼は、先生の代理が勤まるほど成績優秀である一方、「けんかヤス」とあだ名を奉られるほどの喧嘩好きで、級長を勤めながらしょっちゅう立たされていたという。夏休みや冬休みには学校単位の喧嘩に助っ人を頼まれては駆け付けた。「私が行ったら必ず勝ちまんねん。喧嘩もね、頭を使うてその仕方を考えなあかんのです」と、往年の喧嘩の名手はあるインタビューで涼やかにこう言っている。

これほどのエネルギーを、50代も半ばを過ぎてから、安次郎氏は能装束の製作に注ぎ込んだ。もともと帯職人であった安次郎氏に能衣装を織るという発想が生まれたのは、20歳頃から習っていた謡との関係からである。自分は貧しかったので謡しか習えなかったが、息子には是非能を舞わせて、その曲に見合った新しい装束を作って着せたい、能衣装を織りあげる事は安次郎氏のその夢の実現だったのである。

安次郎氏は、ものを作る男は色香がなくてはいけないと言っている。色香とは、美しいものに対する憧憬である。素晴らしい作品を作り出したいという意欲、これはこの世にある美しいものを何処までも追及していきたいという悲願である。伊太郎氏の前代未聞の錦織蒔絵、安次郎氏の絢爛たる唐織、これほどの美の極みを生み出してなお、この二人の天性の職人が決して満足してはいなかったことは、

伊太郎氏の次の言葉が申し分なく表しているであろう：「この世にない織物がまだあるのと違うやろか？もっともっと美しいものが、、、」

伊藤貴美子（門脇）

四日市市前田町 25-17

同窓会名について

同窓会と言いますと「〇〇高☆年度卒業生第△会同窓会」と言うのが多いと思いますが、それはともかくとして、別名がついているのも面白いと思います。私が関係したいくつかを紹介します。

先ず、四郷小の同窓会「八九会」と言います。これは私達の生まれた年が昭和八年と九年なので、ここから名付けられました。同じく津の養正小の同窓会は「八九会」が多いとの事で、校名の一字を入れて「八九養会」にしました。それから、川崎小の同窓会は「桃太郎会」と言います。これは「干支」が、昭和八年が「酉年」、九年が「戌年」であることから命名されました。

次に高校は「昭和二七年三月卒業」と言う事で「二七会」ですよね。津港も同じらしいです。

最後に大学ですが「春秋会」と言います。それは私たちが四期生と言う事から来ています。聞くとところによると、春夏秋冬に集まって「飲み会」にしようとの事だったらしいですが、現役時代そんな時間も無く春と夏に集まるのがやっとでした。そしてこの頃では寄る年波で、秋一回になってしまいました。因みに後輩の5期6期は合わせて「ごろつき会」とか言うのを聞いたことがあります。

何事も始めがあれば終わりは有る物です。私、この「都鳥」のおかげで同級生

の皆さんの色々な人生を知り、本当に良かったと思います。有難うございました。

今井いつ子（大塩）

名古屋市昭和区丸屋町 5-34

老い慣れる

「お元気でしたか」、久しぶりに会った方から、優しく尋ねていただくことが増えました。「ありがとうございます。老い慣れて暮らしています」と答えるようになりました。

何をするのも手のろく時間がかかりますが、とりあえず日々無事にすごしております。息を切らして駆け出したりすれば壊れる体力・体調も、ゆるゆる暮らせばそれなりの日々。体の軋みや痛みにも慣れて、体調には大波小波のあることも判ってきました。「老い慣れる」とはこのことと悟ったのでした。

一方で、「もう旅行など無理」と気落ちしたことも忘れて「あの城跡を訪ねたい」などと計画する身勝手さ。また「もう欲しいものはなくなりました」と言いつつ、力要らずで瓶の蓋を開けられる道具を求めて物を増やす愚かさもあります。

廊下の隅にたまった埃も、のろのろ暮らすうち夕時となり、連れ合いともども見え難くなればそれで一件落着。若い日ならば我慢できなかったことが一寸延ばしに暮らせるようになるのも、老い慣れることのようにです。

老いの入口ではあそこが痛い、ここが軋むと病院通いも多かったのですが、みな「加齢によるもの」と診断され、「痛みはなれます」の主治医の言葉を信じて庇いながら日が過ぎるのを待ちます。というわけで、わが身の機嫌を図りながら、可もなく不可もなく「老い慣れて暮らす」

日々を楽しんでいます。

今村 素久

四日市市大宮町 1 2 - 1 8

俳句の広場 2011

お年始めきっちり決まり幼客

「明けましてお目出度うございます」幼稚園児の孫の玄関での口上です。お歳玉への気迫が感じられます。

春の湖比良を背にして静かなり

湖岸道路沿いから見る琵琶湖は比良山系を背に未だ立春から日も浅く、光も波もなく半眼状態です。

古き街地味な飾りの時代雛

近江八幡の旧家の土間。何段飾りかの古いお雛様が僅かのお土産と共に観光客を待っています。

啓蟄や雨柔らかに地をたたく

雨の啓蟄です。地中の虫達も春雨の柔らかなノックに目を覚ましたことでしょう。

大都会落花きれいに吹かれ行く

首都国会議事堂の周辺は本日は悪天候です。落花も広い都心に散らばって行ったようです。

どんとんと田に活気呼ぶ春の水

田植え前の田んぼへ用水路から勢いよく水が入って行きます。田んぼの土塊が見る見る黒いぬめりのある色に変わってゆきます。

自転車に轢かれ怒られ蝸牛

「あんたがそんな所でうろろしているから轢いてしまがったじゃないの！」己の非を棚に上げて轢かれた蝸牛に文句を言う妻の声。梅雨の一日です。

雲の峰じっと力を蓄える

入道雲は小さくまとまりません。大きく大きく、高く高くなって行きます。途中で挫けたりしません。

熱帯夜団扇同士の会話かな

眠れないままに団扇同士がバタバタと会話しています。「暑いな」「暑いね」「今何時かな」「さあ？」

秋の夕庭師は見えぬ鉄音

松の手入れの庭師さんが遅くまで頑張っている。チャチャと剪定鋏の音はすれども、中段の枝に取り付いている庭師さんはさだかではありません。

岩脇 昌生

西宮市殿山町 5-26

震災体験

平成7年1月17日、5時46分、戦後最大規模の阪神大震災の恐ろしさを体験しました。

「どどどど」と上下に激しい揺れ、何が起ったのか想像できず、咄嗟に布団をかぶり女房と抱き合って身じろぎもせず10数秒、尋常でない揺れで建物も壊れるのではないかと思いました。箆笥は倒れ上置き戸袋は開き収納物が飛び散った。娘は箆笥が倒れドアが開かないと泣き声、我が家は騒然となりました。

階下の家具、テレビは全て倒れ、200キロ以上の重量のピアノはキャスター受け皿から飛び出し30センチほど移動、思い出多い食器・陶磁器・酒類はすべて破損散乱、足の踏み場もない無残な様相、悔しい思いをしました。

電気、ガス、水道、電話はストップ、身動きの出来ない日々が続きました。普段の当たり前の生活が一変、特に水の確保には苦労しました。幸い前日の風呂水をトイレ、選択に利用できたので助かりました。飲料水は会社からポリ缶に入れて運びましたが、水は重く揺れ動き、地下鉄の階段の昇り降りは重労働で苦労しました。近隣の倒壊家屋、救出状況等、災害を記録するためカメラを向けましたが、悲惨な状況にシャッターを押すことが出来ませんでした。

常に2～3日分の飲料水・食料と懐中

電灯の常備が必要です。それと睡眠時洗浄のため取り外す義歯を忘れずにご注意。人力、人知の及ばない事は多く、自然の力の恐ろしさを体験しました。東日本震災で被災された方にお見舞い申し上げ、心沈んだ人々が明るい笑顔を取り戻されん事を願っております。

鹿島清孝

いなべ市藤原町山口 2178

こんなことがありました

私は、おおよそ50年前に藤原岳の麓で、マス、アマゴ、イワナの養殖を家内と二人で始めました。毎年、マス釣りや炭焼き料理を食べにたくさんのお客さんが訪ねてきてくれます。長年、こんな仕事をしていると、あちこちの学校の生徒や子供さんたちが、釣り体験をしたいとか、魚の話を聞きたいとか、先生に引率されてやってきてくれます。

ある時、名古屋の中学校から男女50名ほどがバスで来てくれました。いつもの通り、みんなを座らせて「よく来てくれました。鹿島清孝です。皆さんはどこからきましたか」と、挨拶から始めました。皆の顔を見渡すと中ほどにいたひときわ体格のよい生徒がふざけて「アメリカ」と大声で怒鳴りました。

私はムカッとして、その生徒の前に進み、丸めた雑誌でその生徒の頭を叩きました。「おじさんは、まじめに話しているのだから、君たちはまじめに答えてほしい」と静かに話しました。引率の先生の手が震えていました。

子供たちは、私の生い立ちや魚の話を熱心に聴き、マス釣りや炭焼きを楽しんで帰りました。帰り際、女生徒や男生徒が、私と家内のところにきて「ありがと

う」「一緒に写真撮って」「握手して」「おじさんカッコイイ」と大変でした。

10日ほど過ぎて、その時の引率の先生二人が、たくさんケーキを持参して挨拶に見えました。不思議に思っているお尋ねすると、釣りにきたクラスは学校でも問題の荒れたクラスで、私が頭を叩いた生徒が一番の首謀者でした。後ほど聞いた話では、私が叩いた生徒は翌日から真面目な生徒になり、クラスも真面目なクラスになったと聞きました。

今は亡くなった家内と二人でホットしたことを覚えています。私が頭を叩いたことがそんなに役立ったのかなあ、とつくづく思います。昔人間ならば当り前のことですが、最近の子供は叱られることがないのでしょう。私の人生の一ページでした。

春日 一彦

名古屋市西区西原町 63

四日市の古地図

残念ながら最終号なので、最終にはやはり故郷四日市に舞い戻る事にした。

秋に国民学校の同窓会「はちく会」があり、食事後、「旧四日市」を散策する予定になっている。

私の手元に増田武夫著『旧四日市市内東海道往来』と『四日市の誕生 市の道・浜往還』という古地図がある。前者は昭和三年十一月作成で、海蔵橋から南へ三滝川を渡って現在の四日市南警察署辺りまでが描かれている。後者は昭和初年作成で、三滝川に架かる明治橋から東へ、現在の中町を通して浜町の思案橋までである。

この二つの「道」の交差点は「札に辻」と称され、「四日市」という名称の発祥地

とされている場所で、江戸時代にはここに高札や道程標が建てられた起点でもあり、四の日には大規模な市場が開かれたという。

「はちく会」の散策計画を知って、改めて丹念にページをめくってみると、なんとも懐かしい家々、商店、小中高の同窓生や、その後に友人になった人々の家も見つかるのである。

この古地図を眺めていると、戦争がまだ激化する前の、在りし日の街の風景が浮かんで来る。現在の中町が、旧四日市の繁華街であったので、夏の宵にこの「浜往還」を親に連れられて歩いたり、アイスクリームを買ってもらったりしたものであった。西にはモダンな「東洋バザー」があり、東の果てには「大正バザー」があった。どちらも子供にも魅力的な、何でも打っている百貨店であった。祖父に頼まれて毎日のように貯金にしに行った「日本貯金銀行」、そのお使いの駄賃でお菓子を買った栄昌堂、その他の種々の商店や芝居小屋、、、。

これらを懐かしく思う人々は、四日市でもわれわれ世代で終わりではないか。そして、やがてはわれわれの記憶からも去って行くのだろう。

木村 達也

横浜市鶴見区東寺尾 5-5-43-203

有難う「都鳥」、そして在校生へ

「都鳥」は今号で終わる。企画、編集、発行に努力して来られた皆様に心からの感謝と経緯を捧げたい。

さて今回は、我が国の品質管理導入のパイオニアとしてデミング博士と共に日本的Q Cの発展に大きな足跡を残され、また第一次南極越冬隊長としても有名な

故西堀栄三郎博士から直接伺った多くの話の中で一つを選んで書くことにしたい。

それは1973年5月、ヤルンカン(8,505 m)に70歳で総隊長として挑まれた時の話である。博士のもとの登攀隊長以下が綿密な計画を立てたのを見て、「良くできた計画だがこの通りに行くものではない。問題は思いもよらない事が必ず起きる事だ。その時登攀隊長がどういう態度で居るかという事が一番大切な問題なのだ」と話した。果たして最も強い筈のシェルパが高山病に罹り貴重な酸素を計画以上に消費し予定していた最終キャンプを張れずに、2名が登頂に挑むことになった。幸い成功したが、その下山中再び問題が発生する。登頂隊が持って行った無線機の故障である。

キャンプから見ていて指示を出しても通じない。その結果長い登山歴で初めて1名の命を失う痛恨の結果となった。

責任者が「責任をとる」と幾ら云った所で1人の隊員の命を償えるものではない。随分考えた末、品質管理にいう「失敗に学ぶ姿勢」から、次に二度とそういう事を起こさない為にどうしたらいいかと反省会をもち各方面へ報告した。そこで親友、今西錦司博士から「お前はけしからん！」と一括されたというのである。曰く「お前は登攀隊長に任せたと云っているがそうじゃない、お前は放任していたのだ。放任は罪悪だ」と。

隊長の健康や安全を徹底的に考えていたか、もしそうしていたら何か感じるものがあつたに違いない。例えば「無線機をもう一台持たせたか」位の事は云えた筈、それに気が付かないという事が真剣さが足りないとの指摘であつた。

「責任をとる、責任をとる」と云うけれど、それは「事前にすることが、責任

をとること」であって、事が起こってからやることが「責任をとる」と云う事にはならないのである。

「責任は事の起こる前に負うもの」という西堀先生のこの話は、以後の私の強い教訓として残り続けた。

在校生諸君がこの考え方も参考に、社会へ出てから流石に四高の卒業生と云われるよう成長されることを期待して「都鳥」最終号への寄港とする。

熊沢喜代子（味香）

名古屋市中央区新栄 3020-28

ライフ&シニアハウス千種 710

浜辺の思い出

新潟の海辺の家に住んだのは4歳から9歳くらいまでだった。家の裏に続く松林を抜けると、小さな砂丘があり、それをだらだら下るとすぐ波打ち際だった。振り返るとその頃が私の子供時代で際立って、温かく柔らかい光に満ちた時代だったように思う。春には松の根元にスミレが紫色に咲き、夏には海水着の上にタオルのマントを羽織ってそのまま海水浴へ。秋には群生している“こばん草”の乾いたのを耳元で振り、シャラシャラという音を楽しんだ。

冬は起伏のある松林は子供達のミニスキー場となり、兄や姉は松の間を縫って長いコースを楽しみ、チビは長靴の上につっかけのような短いスキーでなだらかな短いコースで遊んだ。時には松に衝突してコブを作ったりしたが、当時の親は大らかなもので別に止めたりはしなかった。

そんな数々の思い出の中で忘れられない一こまがある。“佐渡に沈む夕陽”である。父と二人砂丘の上に立っていた。夕

陽は佐渡に寄り添うように赫かくと燃えていた。娘は父の手をしっかりと握ってその赫かくを見つめていた。父も黙って夕陽に対峙していた。時代の不穏な空気を感じ不安がよぎっていたのか、はたまた娘同様に自然の壮大な美しさに打たれていたのか・・・。

その数年後に父は鉄道軍属として南方に行く事になる（無事帰還したが・・・）。そして私達は、大波にさらわれたように戦時の子供となって行ったのだった。

黒宮 康

四日市市西坂部町 3779-1

社交ダンス

定年後、生涯学習として四日市市民大学、みえ長寿大学に入学して、詩吟、伊勢型紙、グランドゴルフ、ウォーキング、社交ダンス、カラオケを学びました。数多くの友人に恵まれて親交を深め、いまだに多くの方々と付合っています。

この内、生涯忘れられないのが社交ダンスです。10名ほどの仲間で「極楽芸能同好会」なるものを結成して、年に3回、四日市、津で会場を借り200名前後の参加者を集めてパーティを開催していました。デモンストレーション、剣舞、かつぽれ、どじょうすくい等を含めた楽しい企画でした。これが月間社交ダンスビュー平成元年5月号で紹介され「極楽芸能同好会第4回・和みの集い」と言う記事で掲載されました。

富中時代の同級生で久村孝和さんがダンスの先生でした。彼は現役時代ラテンダンスのプロチャンピオンです。教室での指導は厳しく、姿勢、ホールド、ステップ等、基本が如何に大切であるか徹底的に教わりました。習い事は詩吟、伊勢

型紙などもそうですが、一流の先生に習うことが大事です。

私は 14 平成年に難病重症筋無力症にかかり 5 ヶ月入院しました。現在も進行中です。又平成 20 年に肝臓がんになり、今まで 7 回の手術をしました。お前はしつこい奴やなと言いたい放題を言われておりますが、病院のスケジュールの合間をみて、欠席ぎみですが現在もダンスで活躍しています。好きだから続けられると思っています。

小島 紀子（伍島）

小平市鈴木町 2-8-865

終刊によせて

くちなしの木をはだかにでもしそうな勢いで蠢いている青虫をみつけて退治した翌日、その隣のくちなしも枝がむきだしの悲惨な姿になっていました。5 株ほどあるくちなしの青虫退治に、今年の夏は過ぎていきました。

都鳥が終刊になると伺って、刊行に関わられた皆様に、深く厚く御礼申し上げます。出版の世界に多少は縁のあるなりわいの家にいたものとして、その大変さは十分に理解しております。ご努力に、心からのご苦労様を申しあげます。

伊藤幸子さんが東京女子大学に在学中の下宿先が、今私が住まうところのお近くだったと伺って、ある晩秋の一日、思い出を辿りませんか、とお招き致しました。その折に浮かんだ短歌を、幸子さんに贈ります。

かたちよき 紅葉ながめてお弁当の
品定めなど友とぬくもる

武蔵野の 名残り色濃き玉川に 無言
の刻が水面名がるる

国保 元愷

世田谷区玉川 3-1-18-908

11.9.10. あれから 10 年

2001 年 9 月 10 日午後、当時米国の TV 放送機器企業の GVG 社の日本代表を兼ねていた私は役員会に出席するため New York JFK 空港に着き、迎えの車で Waldorf Astoria ホテルに入った。異常に蒸し暑い日で夕刻から猛烈な雷雨となり、34 階の部屋から見る Manhattan の高層ビル群の避雷針に落ちる稲妻は花火のように美しい。

篠突く雨のために外での食事を諦め、ホテルで会長、北米、欧州担当の役員と共に夕食を楽しんだ。Thousannd Island というサラダドレッシングが最近ポピュラーになっているが、これは Astoria ホテルのシェフが始めたもので、ここの食事は中々美味しい。IT 景気を祝って Napoleon が好んだ Gevery Chambertin と Pouilly Fuisse の紅白のワインで乾杯し、この景気がいつまで続くかが話題の中心になった。

夜来の雨でいつも薄汚れている New York の空が翌朝は見事な青空になった。役員会が 9 時に Rockefeller Center (RC) で始まるので 10 分ほど前にホテルを出ると、Hudson 河畔の世界貿易センタービル (WTC) から白煙が上がっている。初秋、地下鉄の排気口から白い暖房のスチームが上がるのは New York の都会的詩情の一つだが、あれもスチームだろうと話しながら RC の 54 階に上ると人々が騒然としてテレビの前に集まり、8 時 46 分に旅客機だ WTC 北棟に衝突した映像を見ている。

会議室に入ると直ぐ、東側の窓から 2Km ほど離れた WTC 南棟に 2 機目の旅

客機が激突した。猛烈な火焰と黒煙が吹き出し、映画のような光景が現実展開した。テレビは“America is attacked”というテロップを流し始め、WTC の窓から小さなものが次々と落ちてくる。目を凝らしてみると、ビルの中の人々が熱さに耐えかねて飛び降りるのだ。WTC 周辺は血の海と化し、間もなく二つのビルは崩れ落ちた。

翌朝の新聞は“Day dawns ordinary ends with a changed world”（昨日の朝はいつもの通り明けたが、夕暮れには世界が変わってしまった）という見出しで Osama bin Laden を首謀者に上げていたが、日本の真珠湾攻撃と神風特攻隊に結び付ける論評が圧倒的に多かった。アメリカ人は日本の宣戦布告前の不意打攻撃と、自爆テロが特攻攻撃に始まったことを今も決して忘れていないのである。

後藤隆三

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

海と私（6） 練習船は海の S.L.

蒸気機関車 C62 が復元され、現役に復帰するまでを記録映画に撮ったとの報道がありました。煙と蒸気を吐いて走る SL の姿には、自分が若かった頃と重なって郷愁を感じます。

ところで、海の S.L.、いや S.S はご存知でしょうか。STEAM SHIP の略、蒸気機関で走る船のことです。私が海上保安大学に入学した昭和 27 年当時の練習船の船名は「栗橋」（2,000 トン）、日露戦争当時のロシアの救難艦でした。

速力は 8 ノット（時速約 15 Km）、大きなボイラーで石炭を焚き、蒸気で走ります。主機、発電機、ポンプ類等は蒸気

で動きます。ボイラーを焚かなければすべて動きません。停泊中はバッテリーの照明だけです。機関科実習でボイラー室に入ったとき真っ赤に燃えている火を見、物凄い熱さを感じたときは地獄の一丁目に來たと思いました。室温は 40 度以上あったと思います。汗はすぐ乾いて作業服には汗の結晶ができました。置いてある薬缶には塩水が入っていました。熱中症対策で塩分を取るようには聞きましたよね。

航海科の実習で船橋に立ったとき、煙突から出た煙が船尾から吹いてきた風に流されて前が見難くなることが時々ありました。

学生の居住区は学習室兼食堂で、ここにハンモックを吊って寝ました。雨が降るとスカイライト（明り取り）から雨漏りがして雨合羽をかけて寝ました。本当にひどい船でしたが、瀬戸内海を走っていると殆どの船が似たようなボロ船が多かったように記憶しています。ゆっくりと、静かに走る練習船「栗橋」の船上から眺めた瀬戸内海の景色は脳裏に焼きついています。

「栗橋」で乗船実習をしたのは 2 年間でした。3 年から練習船はディーゼルエンジンで走る「こじま」に替わりました。栗橋に比べて出港準備がずいぶん楽になりました。煙突から煙は出ませんし、速力は倍以上になりました。現在は 4 代目の練習船で、卒業航海はパナマ運河、スエズ運河を通り世界一周です。若かったら世界一周したいです。



坂田かよ子（芦田）

四日市市桜花台 2-1 7-2

たぬと3匹の子猫達

その猫が我が家の庭に来るようになったのは1年程前の事だったでしょうか。濃い茶色に黒の縞模様が美しいその猫は、とても痩せて小さく、ほんの子猫のように見えました。まん丸の目を見開いて必死の形相で餌をねだるその様子に、つい面倒を見ずにはいられなくなりました。

そんなたぬが今年の春なんと母親になり、それも3匹の子猫の有能な母親になるに及んで、家の中は毎日が、所狭しと走り回る3匹のギャングの大運動会場となりました。痩せていた小さなたぬは、すっかり母親の顔になり風格すら感じさせるようになり、3匹のやんちゃ坊主の上に絶大な求心力を及ぼしつつ、私が大声で子供を叱ろうものなら、カーッと歯を剥いて向かって来、“母は強し”の実例を示します。今も缶詰をねだる時はまん丸の目を見開いて必死の形相になりますが、まずは子供達に十分食べさせた後、自分は僅かになった残りを食べるという見事な母親ぶりを見せてくれます。

暴れ廻るギャング達は時に悪魔に見えますが、くっつき合って無防備に眠る姿は本当に天使のようです。ともすれば単調に過ぎて行く毎日が、この子達のおかげで、怒ったり笑ったりの忙しい時間へと色づいていくように感じられうこのごろです。

最後になりましたが、都鳥本当に有り難うございました。ここまで発行を続けるには沢山のご苦労があったことと思います。手元に届く度に幾度も幾度も読み返し、懐かしいお友達顔を思い描いておりました。本当にお疲れ様でございま

した。

谷奥由紀子

大阪市住吉区我孫子 2-11-4

おしまい？ 始まり？

この回で「都鳥」がおしまいと聞き、淋しい想いをしています。

懐かしいお友達の方々の、今頑張ってるしゃる様子がよくわかり、とても楽しみにしてたのに、、、。かかわって頂いた皆様方のご苦労はよく分かっているのですが、、、。また何らかのもっと自由な形でのお便り集を、新しく企画していただけたらなあなんて勝手な事を考えてしまいます。

私も、故郷を後に、家族揃って大阪に来て45年、目の不自由だった長男の学校の為だけに、誰一人知人も居ない大阪に来て、随分長く居座ってしまいました。

今は一人つきりになってしまったし、そろそろおしまいにしなければ、、、と、弟妹達の暮らしている三重に帰ろう！と思っています。

これが人生のしまい支度なのか？ 新しい生活の始まりになるのか？

答えは帰ってからでないと分からないけど、頑張って始めにしたいと思っています。

中根 正雄

名古屋市南区平子 1-2-5 バーデンハム

桃月 301

へそ

昔の人は「人間の体には、いらない器官は一つもないが、へそだけは役にはたない、へそは腹と背なかの区別をつけるくらいがせいぜいで、ごまをとったり

すると腹が痛むばかりか、力も抜けてしまう」などといいました。

一方、「見つけたり蛙に、へそのなきことを」といってへそのあるのは高等動物の証明であり、母との絆のことを教えています。

しかし今は腹の真中にただじっとしているばかりなので「いつ見てもひまそうなのはへその穴」とからかわれ、反面、茶を沸かしたり、笑ったりもする奇妙ものです。いづれにせよへそは臍帯のとれたあとで、いわば生命の起源といえるところです。体が成長するにつれて、へそのまわりの部分もだんだん発育していきますが役目のすんだへそは発育しません。そして、まわりの皮下脂肪がたまってくるとへそはへこんでいきます。

へそという名は、そこどころが減っているの、それで減るの「へ」とその「そ」から「へそ」と呼ぶようになったそうです。へこみすぎた深いへそは太っている証拠です。でべそは一種の臍ヘルニアを合併している可能性があり、どちらもいただけません。少しへこんでごまかない底がみえるたてながのかわいいへそが美しくもあり健康的で素敵だと思います。

出世魚のぼらのへそは胃の一部であり、ジャーのへそはガラスとガラスの内部を真空にするためにあり、テニスボールのへそは空気の出入口として作られており、どれもこれも大切な役割をしています。

皆さん、もう一度自分の神秘的な生命の起源のへそを眺め、まず健康的なへそであるかどうか。そしてこの世の中に生まれてきた使命を再度よくよく考えてみましょう。氏族維持の印でもあります。

都鳥愛読者の諸君、諸君の臍は世代交替を繰り返し「都鳥」と共にいつまでも

生き続けること間違いありません。いろいろと面倒を見てくれた編集者の諸君、ご苦労さま、有難う。

西脇基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

靖国神社

過去の戦争を反省して、その参拝については、賛否両論いろいろ議論がある靖国神社だが、一つだけ子供の頃の記憶を書き残しておきたいことがある。

戦争が始まったのは小学二年生の 12 月 8 日、敗戦で終わったのは小学六年生の 8 月 15 日である。幸い私たちは実戦に参加することはなかったが、この 3 年 8 ヶ月の小学生時代に、多くの出征兵士を送り出してきました。村の小学校の校庭に、毎月、出征する兵隊さんを、時には一人、時には数人を迎えて、村長や校長が挨拶をする。これに応じて、戦闘帽をかぶり、日の丸の襷をかけた出征兵士が直立不動の姿勢で挨拶をするのだが、みなそれぞれに「お国のために戦ってくる。生きては帰らぬ。靖国神社に英霊として帰ってくる」と、叫ぶように挨拶された姿を今もって鮮明に記憶している。

不幸にしてこの戦争で亡くなられた方々は、死後、靖国神社に祭られて後世の日本国民から自分の霊が丁重に扱われると信じて亡くなられたと思う。私たちも小さな胸の中でそう約束しました。

しかし、国民の代表である総理大臣は「私は靖国神社に参拝しない」と発言されている。祖国のために戦って命を落とした 300 万人の兵士の気持ちを考えるとき、悲壮な気持ちで挨拶された出征兵士の姿を思い浮かべ、なんとも割り切れない気持ちになるのである。別の施設を

設けるという話もあるが、靖国神社を信じて亡くなれ方々を思うと、死者の霊に報いたことにはならないのである。

浜本ひさみ（羽場）

小金井市貫井南町 1-11-7

三組女子会

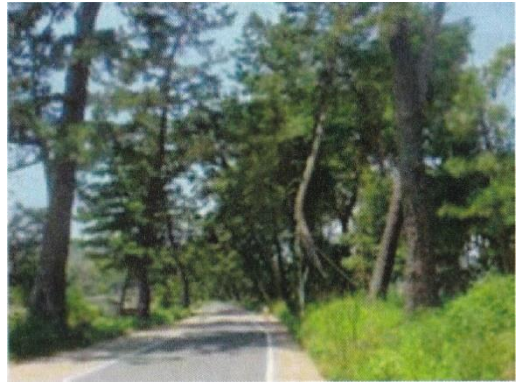
今年5月19日地元在住の大野さんの企画でクラス会が催された。名鉄御油駅10時過ぎ集合。京都から石原さん、東海地区から、伊藤、原、水谷、米本の諸嬢に加え、二組から安藤、渡邊さん、東京から私の総数9名となる。

御油駅から松並木資料館などを経て、「天然記念物御油の松並木」を歩く。静かで涼しい木陰はほんとに安堵の思い。関川神社で記念撮影。御油赤坂間は東海道の中で最も短く1.7kmとのこと。お昼は予約の赤坂の宿大橋屋へ。創建当時の佇まいは賑わった頃の街道の趣を彷彿とさせる。暖簾を入り、名物のとろろ汁などを頂く。旧姓が飛び交い話は尽きない。19代目の当主の話によれば、太い梁の上に飾られた米俵は、お祝に貰った物、穂が出ているのは粃が入っている証とか。2階の客間の連子窓も趣向を凝らしたもので、そこから街道を行き来する大名行列を見物したという。赤坂の宿は飯盛女が男達の袖を引き大層賑わった花街で「御油や赤坂吉田がなくば何のよしみで江戸通い」などと言われたもの。

さて私には久し振りの参加で、新幹線に乗った時から旅が始まっていた。

杉木立黄と褐色に彩られ盛り上がりを取り花粉満つるか（車窓より）
歴史的文化の香り土間に密つ暖簾菅笠
由緒ある駕籠（大橋屋）

名鉄名電赤坂駅から帰途に。この会が卒業以来続いているのは、三組のみんなの団結の賜物。三組は永遠なり。万歳三組！（写真は御油の松並木です。）



樋口 公

三重郡菰野町菰野 2114-2

城崎に遊ぶ

初夏の城崎温泉を訪ねる。旅館で早速、城崎名物の外湯温泉の湯券をもらって浴衣に着替え、温泉街の舗道をカランコンと音を鳴らしながら出かける。

川を挟んで両側に道路が走り、その河畔に植えられた「しだれ柳」が風に吹かれて涼しげに枝を揺らしている。

川面を覗くと、ゆったりと流れる水中を小魚が群れをなして戯れ、その脇を大きな鯉が悠々とヒレをなびかせて泳いでいる。道路の反対側には古風な旅館・商店が建ち並び、川辺の柳並木と家並みとのコントラストが絶妙なバランスを保って日本ならではの風情を醸している。

まずは、石造りの太鼓橋を渡って「まんだら湯」「御所湯」「一の湯」の順に巡る。それぞれに唐破風様式、桃山様式とかいうように独自の趣があって面白い。外湯は7軒あるが後は省略。

旅館に帰って夕食の後、夜の温泉街探訪に出る。夜風に揺れるしだれ柳が雪洞に照らされて川面にゆらゆらと影を落としている。

温泉街は風呂上がりの観光客で賑わっている。あちこちの店をひやかしながら時間をつぶす。間もなく10時というのに温泉街は人通りが絶えない。旅館に帰って眠りにつく頃ようやく城崎の夜は静かにそのとぼりを下していくのであった。

城崎旅情 樋口 公薦

涼風清爽川面揺 楊柳垂枝復撓撓
聖夜嬌声愈閑臈 早晨泉郭全静寂
(後対格蕭韻)

りょうふうせいそう かわも ゆ
涼風清爽として川面を揺らし
ようりゅうえだ た また あでやか たわ
楊柳枝を垂れて復 嬌に撓む
せいや きょうせい いよいよ にようそう
聖夜の嬌声 愈 閑臈たるも
そうしん せんかく まった せいりよう
早晨の泉郭 全く静夢たり

水谷ひで (田中)

四日市市中川原 1-10-21

八重山諸島への旅

ツアーに参加して八重山諸島を訪れました。離島での新しい体験の中の2つを紹介します。

1つは日本の滝100選に選ばれているマリウドウの滝へのトレッキング。流域にマングローブが生い茂る川をしばし上流へとクルーズし、岩場に作られた船着場から片道約40分歩くと滝に到着します。片側は大きなシダ等が目の前にまで生い茂る山でもう一方もやはり木々の繁茂する急な坂が谷底へと続く一人がやっと通れる程の山道で途中には大きな木の根っこが横たわったり落差の大きい滑

りやすい石があったりもしましたが、ネイチャーガイドから植物の説明を聞いた足場の悪いところは声をかけていただいたりしながら思ったより楽に着くことができました。マリウドウとは丸い淀みの意味で滝壺が丸いのが名前の由来とか。落差約20メートルで白い糸を幾重にも流したような水の流れが美しく、ジャングルのような緑と滝の水の白さのコントラストも絶妙でした。

もう1つはヤエヤマボタルの鑑賞。西表島にいる蛍は約10種類ですべて本土の蛍と違って陸生で幼虫からずっと森の中で生活しています。その中で特にヤエヤマボタルは4月頃をピークに発生する体長5ミリ前後の日本最小の蛍で、発光するのは日没から約30分間と短いけれどその光の点滅は速く力強く森に飛翔する数もものすごく、よくクリスマスイルミネーションに例えられるそうですが、真っ暗な山の斜面を飛びながら光するのですからはるかに幻想的で圧巻でした。蛍を刺激するから声を出さないようにとガイドに指示されていたのですが思わず感嘆の声をあげそうになり息を呑み込みました。

1人参加でしたが、お天気にも恵まれお友達もでき楽しい3日間でした。

水野とよ子 (山田)

四日市市羽津山町 9-5

友達そして親の加護

八九会と名付けた月一回の集まりを始めて35年以上が過ぎた。四女時代の出会いから65年が過ぎ、ちゃん付けで呼び合っている八人は見事に老人に変身している。

この中の二人に親の加護を感じたのは

何時頃だったか。一人は八恵ちゃん、対照的な体格の二人が如何にして知り合ったかと言うと、お互いの母親が四女時代の友達と言う事で最初に種ちゃんと知り合った。彼女が小柄で席順で傍にいたのが八恵ちゃん。医者の娘に生まれた環境からか凄く気が合い生涯の友人として今に繋がっている。母は昨年99歳で他界したが、忘れていた母のエピソードを教えてくれてとても嬉しい。

二人目のちさちゃんは子供のころ盲腸になり、外科医の父の執刀で一命を取り止めたのだと教えてくれた。盲腸で命を落とす人がいた戦前の話で、執刀医が父だったと知ったのは後の事の様だ。その父は38歳で病院船が機雷に触れ戦士した。

高校卒業後に股関節炎で婚期を逃した私を夫と引き合わせてくれたのが彼女で、今の幸せな毎日は彼女がいなければ無かったのだから、どれだけ感謝しても足りない思いだ。

加齢と共に親の加護を感じる事が多くなった。都鳥に八恵ちゃんのピンチヒッターで3回投稿し、最終号とのことで断りもなく二人の事にふれた。日頃の感謝の思いを込めた事でお許しいただきたい。八名揃って共に元気に八九会が続くことを願っている。



山中 房子 (豊田)

四日市市八王子町 8

曼殊沙華

この^{よわい}齢 秘めごとのひとつ 曼殊沙華
パレットに 押し出す青や 夏兆す
クラス毎 競い育てる トマト熟れ
^{とんぼ}赤蜻蛉 何処へ行くやら ^{にわか}俄雨



山中房子 画

渡邊喜代子 (山下)

三重郡川越町大字高松 155-1

医療の進歩に感謝

この齢まで大きな病気もせず手術したこともなく、このまま一生過ごさせて頂けるかと思いきや、去年の三月市立四日市病院循環器科で心電図・心臓エコーカテーテル等検査した結果、大動脈弁狭窄症と診断されました。

余り自覚症状はなかったので、定期検診していくことになりましたが、神経的に体の調子が悪くなり、自分で病気を悪くしていくようなマイナス思考になっていました。しかし先生や家族の支えがあり、心を強くもって生活するようにしていました。

旅行も良いと許可もできましたので、妹

とブルガリア、ルーマニアとバラ祭に出かけ、楽しい旅でした。帰ってから三日目に北海道の函館と江差へ行き、体力も少し自信がついてきました。ところが、十二月の検診のとき、胃カメラのような口から入れる器械で心臓を見ると、心房に先天性の穴が開いていることが分かり、体力のある時に手術をした方が良いと言われ、私も決断して先生を信頼し、心臓の手術をして頂きました。

思ったよりも苦しむことなく早く回復して元気になってきました。三月には喜寿を迎えましたし、新しい気持ちで頂いた命を感謝して大切に過ごしたいと思っています。

渡邊喜久子（後藤）

三重県三重郡川越村高松 789

講演会

30年あまり前のある日、文化勲章を受章された丹羽文雄の記念講演会が四高であると聞き、久しぶりに四高の体育館へ独りで出掛けて行った。体育館にはすでに全校生徒が着席していた。窓際の列に同窓会かPTAか、役員らしき人々が座っていたので、空いていた端の席に掛けた。

文壇の長谷川一夫と言われている丹羽文雄、初めてのお目もじである。しかし壇上に立たれたその人の顔はよく見えなかった。話の内容は忘れてしまったが、母上のことを少し話されたのが記憶に残っている。4歳の時家を出られた母の事を書かれた著書「菩提樹」は読んでいる。他人には話したくない身内の事情を赤裸々に書かれていた。作家とは、ここまで非常になれるものかと感じた。

講演が終わり退場されるのを出口まで行って見送り、間近で拝顔することが出

来た。じっと見つめていた私と視線が合い、ドキッと心ときめいた一瞬を今でも覚えている。

丹羽文雄は案内されて、十四川の向うにある同窓会館へと歩いて行かれた。堤防の桜が祝福するかに吹雪いていた。

丹羽文雄花吹く雪受く母校かな

喜久子

渡邊千恵子（服部）

春日井市藤山台 5-4-8

「ロコモ」の予防

最近ロコモティブシンドローム（ロコモ）という言葉をよく耳にするようになりました。運動器の障害の為要介護となる危険性のある状態を言うそうです。

私が50歳になる頃近くに新しいスポーツセンターがオープンして会員の募集をしていました。同年の友人と誘い合って3人で水泳教室に入りました。

3人共やっと浮くくらいの初心者でしたが、週一回3年くらい掛かって、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライを何とか25メートル泳げるようになりました。しかしそれぞれに何かと忙しい年代になり、途切れてしまいました。

64歳のとき足腰の不自由な母の元へ外語に通う頃、私も腰と膝を痛み、母のかかりつけの整形外科の先生のお世話になる始末。これでは大変と思い、馴染みのスポーツセンターに再入会して、トレーナーにリハビリの為の水中ウォーキングのメニューを作ってもらいました。

2004年4月からです。途中で何度か失敗もありましたが、昨年から一度も痛まず、正座も楽にできるようになりました。ウォーキングだけでなく、泳ぎもクロールならとても気持ちよくお魚になった気分

で泳ぎます。50代に泳ぎの基本を教わったお陰だと思います。現在は週2回背筋を伸ばすエクササイズ、太極拳も併せて楽しんでいます。

都鳥さん、懐かしい皆さんのお便りを5年間もお届けくだしまして、本当に有難うございました。編集委員の皆さんに、心より御礼申し上げます。

渡邊 義明

芦屋市緑町 1-15-601

老いのたわ言

老後を心静かに過したいと、1999年に職を退いた。仕事は充実していたが精神衛生上芳しくなかった。その時、それまでの自分を総括して見た。減点材料、反省点は山ほどあるもののそのへんは妥協して「達成感はないが、ほぼ満足」とした。昨年末イチロー選手がシーズン 200 安打を継続して、上記と全く同じ言葉を述べたようである。同じ言葉でも内容がこうも異なるとは……。

特に趣味もないので、無心に打込めるものとして能面打ちを習い始めたが、彫りは満足できても最終段階の毛書き（女面は細い線で片側に数本ずつ描く）がへたくそで、先生がボケ始めたのを機に仏像彫刻の先生を見つけて乗り換えた。最初は有名仏像の図面や写真・実物等を見て彫るいわゆる摸刻をした。数年間摸刻に取り組み20体近く彫った処で次の作品が決まらない。摸刻の壁にぶつかったわけです。芸術オンチの私には作品のイメージが全く湧かないのです。結局、仏像も止めて失業中です。私の作品の中でたまたま一点だけ第三者のある程度の評価を頂きました。それは 100%私のイメージで彫った或る上人像です。芸術家の

資質の要件が少し判ったような気がしました。

一方、退職と同時に当地の老人大学である芦屋川カレッジに一年間お世話になりました。このカレッジの講師陣は京大・神戸大・大阪市大等のそうそうたるメンバーによる本格的なもので、原発問題で一躍有名となった反骨の士、小出京都大学原子炉実験研究所助教の講義もあり、充実した一年でした。同期の数十名との交流は今でも続いています。

カレッジの終了記念誌に「最も幸せなる世代」の題目で投稿をした。要約すれば、我々の世代は戦時・敗戦の体験及びその間に受けた教育（いい加減な点もあったが）、その後の経済発展の体験と退職後の高齢者に対する手厚い処遇（現行年金制度及びその運用に対する皮肉のつもり）等を考えると、有史以来最も幸せなる世代である旨を記した。殆んどの期間を通じて活気があり希望に満ちていた。

余生を安らかにと、内面から安静化を心がけて来たつもりですが、現在の世相は私の願いを外部より攪乱されているようで、なんとかならないものか。毎年末に発表されるその年を表わす漢字も芳しからぬイメージの字が続いていますが、楽しい字が現れる年が続く事を祈っております。



編集者からのご挨拶

伊藤 幸子

5年にわたる「都鳥」の編集経験から特に心に残ったことを一つ、それは「引き算」ということでした。此の場合引き算とは、自分の主張を通す事をせず、一歩下がって他人に譲る行為を意味します。私はこの仕事の中に、関係者の方々のそのような行為（行為は好意に通じます）に一度ならず心を打たれた事があり、それが忘れえぬ思い出になりました。

たとえば、そこに載せるつもりで書いた折角の文章を、字数やスペースとの関係で、引っ込めねばならないのは、少なからず不本意であるはずなのに、些の不満も見せずこちらの都合に譲って下さったことなど、本当に、有り難くも、申し訳なくも思い、このような潔い「引き算」行為の出来る人をこそ、真の大人と呼べるのではないかと、身に沁みて感じたことでした。

松山 敏彦

途中から仲間に入れていただき、短期間ではありましたが 27 会の皆さんの豊富な経験と知識に触れることが出来て、楽しく読ませていただきました。

書くことは苦手ですが大切なこと、特に年をとってから。「都鳥」を知ってから久し振りに作文の機会が与えられ、小生にとっては大変ためになりました。10 号が最後で残念ですが、毎日の日記を書き続けることさえ容易ではない今日この頃、これを機に実践しようと思っています。皆さん有難うございました。

水谷 ひで

遠く離れて住む同窓生の寄稿による冊子「都鳥」を 10 号まで作ることができたことは二七会の絆の強さを示す証しであり誇りに思っています。そしてそのお手伝いができたことは私にとって幸せなことでした。

投稿の依頼のためにご無沙汰していた方とお話できたり、温かいお励ましの言葉をいただいて同級生の友情に感謝したり、嬉しいことが多々ありましたが、思っても見なかった一面が見えて驚いたこともありました。でもそれもまたきつと懐かしい思い出となるでしょう。

皆さんとともに大切に育てた都鳥が何時までも皆さんの許で愛され生き続けていてほしいなあと思っています。

西脇 基夫

都鳥初版（創刊号）の巻頭メッセージで、伊藤幸子さんが伊勢物語のなかで在原業平が詠んだと言う一説を引用しています。

「名にし負はばいざこととはむ都鳥わが
思ふ人はありやなしやと」

私も、同じ伊勢物語の最終段を引用して、私からのご挨拶とします。

「ついにゆく道とはかねて聞きしかどきの
うきょうとは思はざりしを」

5 年間、ご愛顧とご支援、ありがとうございました。

斜塔で名高い北イタリアの港町ピサには、西欧文明の基本原則が宗教から科学に移った、16世紀の象徴的なモニュメントが多く残っている。礼拝堂の中央に修道女が祈りの言葉を叫ぶと30秒近く荘厳な残響が響き、当時の民衆がこれを神の声と聴いたとしても不思議はない。カトリックの聖職者達は宗教を巧みに利用して民衆を支配していた。

一方大聖堂に吊下げられたランプの紐の長さや振動周期の関係を見出したのはピサ大学教授G. ガリレイである。彼はまた惑星運動を観測して地動説を実証したが、教皇ウルバヌス8世により投獄され「それでも地球は廻る」という科学者の矜持を示す言葉を残した。

1517年M. ルターは聖職者だけが神に仕え民衆を教化していたカトリシズムに異を唱え、世俗の職業の人も信仰を持って働けば、直接神に仕えることになるというプロテスタンティズムの教義を主張し、宗教革命を起こした。今も生きる自由主義経済の勤労倫理である。

1588年世界を支配していたカトリック王国スペインの無敵艦隊がイギリス海軍に敗れ、併せて貿易による富を得た16世紀末のイギリスではW. シェークスピアが大衆性、芸術性を兼ね備えた数々の名作を上演した。また1687年ニュートンが自然現象を正確に観察する手法で古典力学、物理学を「プリンキピア」に集大成した。

18世紀末ニュートン物理学を基盤にイギリスで産業革命が始まり、蒸気機関、コークス製鉄法による近代機械文明の基礎が築かれた。産業はドイツ、フランスに広がり、多くの農民が工場労働者になったが、資本側の過酷な搾取のため貧困生活に転落した。フランス自然主義文学の巨匠E.ゾラは「ジェルミナル」で、15才の少女が炭鉱で長時間労働を強いられ、落盤事故に会う悲惨な様子を文学として描いた。同じころ、K. マルクスは貧困を社会科学の視点から分析して「資本論」を著し、共産主義体制を提唱している。

1792年パリ市民は蜂起してフランス革命を勝ち取り、自由、平等、博愛、民主主義という近代欧米文明の行動原則を打ち立てた。マルクスの共産主義体制は20世紀初めソ連において具現化されたが、競争なき悪平等、官僚計画経済の非効率のため1993年崩壊し、欧米諸国は自由と民主主義の原則に自信を強め、これを全世界に押し付けようとしている。

20世紀初頭、A.アインシュタイン、M.プランク等はニュートン物理学の限界を打破する量子力学、素粒子論を体系化し、原子力、デジタル技術実用化に繋がった。人々の生活は飛躍的に豊かになったが、逆に倫理観は衰弱し、民主主義は大衆迎合政治を生んでいる。

一方中国は1983年の経済自由化の際、国の秩序維持と市民の倫理観育成のために自由、人権への制約を残し、その基盤として儒教原則を重視してきた。礼儀、道徳、社会性を植え付ける儒教教育が、今自由、民主主義の欧米の社会原則にも必要になりつつある。

1930年代H.ヘッセは「シッダールタ」、A.ハクスリーは「見事な新世界」で欧米文明の矛盾解決を東洋に求めたが、今中国はアラブ、アフリカ26カ国に孔子学院を設け、儒教教育を進めている。2008年倫理観なきウォール街が起こした金融危機では、1920年M.ウェーバーが「プロテスタティズムの倫理と資本主義の精神」で指摘した「精神の無い専門人、心情の無い享楽人」が現実のものとなり、欧米文明への疑問が強まった。明治維新後、儒学、漢学を捨て欧米文明吸収に注力してきた日本も倫理教育の再構築が迫られている。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

都鳥の編集および発行の費用は皆さんの温かい心に支えられてきました。都鳥 9 号までに、70 名の方々から総額 22 万 600 円の寄付を頂きました。

都鳥発行の費用は、発行の都度、その期に寄付を頂いた方々に会計報告をしてまいりましたが、ここに 9 号までの費用を総括して、読者の皆さんにほうこくします。

寄付金総額：		220,600 円
印刷、郵便費：		183,482 円
残額		37,118 円

都鳥 10 号を発行しますと、多少、赤字が予測されますが、編集者四人で負担するつもりです。引き続き、寄付を頂ければ助かります。会計を絞めた時点で余剰金が出れば、慈善事業団体に寄付いたします。なお、都鳥基金の振り込み口座は 12 月末で閉鎖します。

振込口座； ゆうちょ銀行 記号 10250 番号 79812901 都鳥の会

この冊子「都鳥」は、三重県立四日市
高等学校、昭和２７年（１９５２）卒
業生で作るエッセイ集です。平成１９
年（卒業後５５年）に同好者が集まり
創刊しました。

印刷・出版責任者：西脇基夫